

さいたま市総合振興計画審議会第3部会  
第1回部会の主な意見について（交流・コミュニティ関係）

- 本部会が担当する「安全・生活基盤」「交流・コミュニティ」の2つの分野を融合して考える視点はとても大事である。
  - この10年の成果を踏まえて考え、それから、この10年で大きく変わってきたことを踏まえた上で、さらに必要なことは何か、大きな視点で話し合っていく必要がある。事務局の案を見ながら、もう少しここが必要であるとか、そういった形で議論を進めていけばよいのではないか。
  - 約10年前の計画策定時から変化したことを把握し、今後の計画に生かしていくことが大切。東日本大震災の発生や高齢化の進行に加え、法律の改正なども考慮し、取り組まなければならないことについて確認する必要がある。
  - 今後の施策を展開していくうえでの共通原則を話し合っていく必要がある。
  - 地域のコミュニケーションづくりは早速にでもとりかかってほしい。防災面に男女共同参画の視点を取り入れることが望ましい。支え合うことが大切である。
  - 資料にボランティア団体やNPOのデータは記載されているが、自治会に関するデータの記載がない。自治会は地域活動の主たる団体である認識を持ってもらいたい。
  - 家庭や地域、企業、行政における性別役割分担意識はいまだ根強いいため、市役所が率先して行動し、地域にPRしてほしい。
  - 外国人の生活者の安全確保と、生活を支えるという視点を盛り込んだ方が良い。
  - 多様な交流を広げるとあるが、さいたま市の文化的な資産が明確に見えていれば、他国との交流もできる。
  - 自分の身近にある問題から解決していくことが大事である。
- ※ 第1回～第3回の部会でのご意見を踏まえ、事務局で計画素案を修正し、第4回の部会において提示する予定です。